資料３

公立公民館の新たな運営について（案）

（現状と課題）

人口減少社会の進行　＋　厳しい市の財政事情

（地域）

町内会自治会を単位とした地域づくり
・人口減少により、地域の結び付きがさらに希薄化
・人口減少により、地域基盤の弱体化

これまで培ったものを守るために（歴史、文化、地域の絆）

（公立公民館）

生涯学習の拠点施設から・・・
・職員による運営（公民館主事、公民館事務員の配置）
・住民のニーズに合った学習機会の提供
・地域活動（行事等）への協力

行政主導から地域主導のまちづくりへ

課題の解決

（将来像）

単位町内会自治会同士のさらなる連携強化

公立公民館区（小学校区又は中学校区）の新自主組織による地域づくり
・地域基盤の強化
（一定人口の確保により、自立心の確保）
・地域の良さや特徴を発揮
（歴史、文化、絆など地域への愛着を維持）
・地域総がかりで地域を支援
（市民が主役、自らの責任により主体的に関与）

機能拡大

生涯学習の拠点施設へ・・・
・地域の人材起用（市職員・教職員OB等から選任）
・コミュニティ事務局と協働した学習機会の提供
・施設と地域活動（行事等）のタイアップ

地域住民組織の活動拠点施設へ・・・
・地域コミュニティの事務局設置（事務局は地域で選任、公民館運営にも関与）
・地域活動の情報発信基地

地域住民の生活支援のための拠点施設へ・・・
・地域と公共交通を結ぶプラットホーム
（乗り合いタクシー「仮」の運行により、高齢者や運転免許証返納者等の移動手段の確保）
・簡易な行政事務手続きの委託

（財政負担）
・人件費の削減（正規職員から非常勤職員へ）
・削減費用を地域支援費用へ（交通手段の確保等）
・施設の維持管理費用

地域のことは地域の総合力で課題解決　＋　行政と地域が協働したまちづくり